

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日(課長等)	元 年 10 月 1 日
2次評価日(部長等)	元 年 10 月 1 日

施策評価表

1 施策の概要

施策名	スポーツの振興	コード	11-3
この施策の主な内容(細施策)	(1) 市民ひとり1スポーツの実現 (2) 競技力の向上 (3) 子どものスポーツ機会の充実 (4) スポーツによるまちづくり (5) スポーツ環境の整備・充実		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	生涯にわたってスポーツに親しみ、明るく豊かで健康的な生活をおくることができるよう、「市民ひとり1スポーツ」の実現のため、市民スポーツの一層の推進を図る。		
担当部課	部 教育部	課等	スポーツ振興課
		作成者	小河原 義友

●施策の実施内容(D0)

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画(最終年度:平成30年度)における目標指標の達成状況、第5次総合計画(前期計画:令和5年度)における目標値

施策指標名	単位	28年度	29年度	30年度			元年度	5年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値(第5次)	目標値(第5次前期)
① スポーツ施設利用者数	人	317,884	310,527	318,000	286,068	90.0%	318,000	460,000
指標説明	スポーツ環境の整備・充実を図り、スポーツ施設(総合体育館、庭球場、屋内プール、スケート場)の利用者を増やします。 ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							
② 週1回以上運動・スポーツをする成人の割合	%	-	46.0	65.0	-	-	65.0	65.0
指標説明	スポーツをする人を増やし、市民ひとり1スポーツを実現します。(市民アンケートより(H28・30はなし)) ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							
③ 国民体育大会出場種目	種目	10	7	18	11	61.1%	18	
指標説明	競技力の向上を図り、全国的な舞台で活躍できる競技種目を増やします。 ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							
④ 国民体育大会出場選手数	人	32	24	38	36	94.7%	38	
指標説明	競技力の向上を図り、全国的な舞台で活躍できる競技者を増やします。 ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							
⑤ スポーツ少年団登録単位団数	団体	11	11	16	11	68.8%	16	
指標説明	スポーツ少年団への加入を促進し、子どものスポーツ機会の充実を図ります。 ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							
⑥ スポーツ少年団登録団員数	人	228	224	410	219	53.4%	410	
指標説明	スポーツ少年団への加入を促進し、子どものスポーツ機会の充実を図ります。 ※27年度以降の目標値は、スポーツ推進計画による。							

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位:千円

	28年度	29年度	30年度	元年度(予算)
直接事業費	22,531	21,249	16,737	17,598
人件費	29,760	29,760	29,760	29,760
合計コスト	52,291	51,009	46,497	47,358

●施策の評価(CHECK)

4 施策の現状評価

*30年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調/不調の判断

- ・ 体育協会等と連携して各種大会、スポーツ教室を実施し、市民ひとり1スポーツの実現を目指した。
- ・ 施設利用者数では、市民総合体育館での大規模な大会やイベントが少なかったため入場者が減少したが、トレーニングルームの利用者は増加した。また、飽和状態の市民総合体育館をさげ、学校体育施設の利用者が増加した。
- ・ 国体出場は、ボート競技、卓球、体操、フェンシング、水泳、スケートのほか、バレーボール、自転車、弓道、ゴルフ等の出場もあり増加した。
- ・ スポーツ少年団の登録団数や団員数は、少子化やスポーツ等が多様化するなかで伸び悩んでいる。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み/弱みとなる要因

岡谷市の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設が充実している。 ・(公財) 岡谷市体育協会がスポーツ振興の実行組織として機能している。
岡谷市の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進行 ・スポーツ施設の老朽化と維持費の増大。

5 今後の外部環境の変化

* 令和2年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピック及び2027年第82回国民体育大会等の開催にともなうスポーツに対する関心の高まり。
不利に働くもの	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進行。 ・ライフスタイルの多様化によるスポーツ離れや子どもの体力低下。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 令和2年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野=優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野 = 優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに策定する「第2次岡谷市スポーツ推進計画」による施策を展開する。 ・スポーツ振興事業では、全ての市民が何らかの形で「みる」「する」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画できるようにスポーツ環境の充実を図る。また、市民ひとり1スポーツの実現のため、体育協会等と連携し、市民ニーズ等も把握しながら、各種大会、教室等に取り組む。
見直しを行う分野	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次岡谷市スポーツ推進計画によるスポーツ振興の展開。

●令和2年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA~Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標	単位	直接事業費			人件費	妥当性	方向性	優先度	
							指標名	28年度	28年度					28年度
								29年度	29年度					29年度
								30年度	30年度					30年度
元年度(予算)			元年度(予算)	元年度(予算)	元年度(予算)									
1	一般	なし	なし	スポーツ振興事業	ファミリースポーツプログラム及び教室参加延人数	人	4,059	10,944	18,000	高い	継続して実施	A：拡大		
							3,864	10,219	18,000					
							3,680	9,844	17,200					
							4,059	10,995	17,200					
2	一般	なし	なし	スポーツ推進委員活動支援事業	スポーツ推進委員活動延人数	人	276	890	4,000	高い	継続して実施	B：現状維持		
							229	850	4,000					
							290	844	4,000					
							290	911	4,000					
3	一般	なし	なし	スケートのまちづくり事業	大会等参加者数	人	4,648	4,033	3,600	高い	継続して実施	C：見直し		
							3,723	3,692	3,600					
							4,001	3,597	2,800					
							4,648	3,755	2,800					
4	一般	なし	なし	バレーボールのまちづくり事業	岡谷カップフレンドシップバレーボール大会参加者数	人	1,516	485	800	標準	継続して実施	C：見直し		
							1,693	482	800					
							1,445	434	2,400					
							1,693	500	2,400					
5	公共施設	なし	なし	陸上競技場管理事業	施設稼働率	%	0.6	143	800	標準	継続して実施	B：現状維持		
							1.2	4,931	800					
							0.9	122	800					
							-	130	800					
6	公共施設	なし	なし	学校体育施設開放管理事業	施設稼働率	%	65.8	1,090	2,400	高い	継続して実施	B：現状維持		
							67.9	1,075	2,400					
							70.4	1,000	2,400					
							-	1,307	2,400					
7	内部	なし	なし	アイスアリーナ維持事業費	施設稼働率	%	-	4,946	160	-	継続して実施	B：現状維持		
							-	0	160					
							-	896	160					
							-	0	160					
8														